

# 4 百草・万蔵院台コース

★ 初級 行程: 約6.0km



**3 百草の集落へ**  
分岐路の下はゆるやかな下り斜面。道路に沿って水路が流れ民家が点在する。なぜか郷愁を誘う、東京とは思えない光景である。

**2 丘陵上の分岐路**  
大宮神社下から住宅を抜け、階段道を上り切ると分岐路がある。写真の雑木林に入る百草園方向には行かず直進する。



**1 大宮神社**  
百草園駅から川崎街道を渡るとすぐに鳥居が見える。社殿は丘陵の中腹にあり、急な石段を約100段上る。



**18 真照寺**  
約千年前の開基と伝わる古刹。山門は元禄15年(1702)の建立で、その門の先には六地藏が立つ。寺から百草園駅までは300mほどである。



**17 アルティジャーノ・ジェラテリア**  
モグサファーム直営のイタリアンジェラートの店。新鮮な自家製生乳と主に地元産の野菜や果物を使ったジェラートが味わえる。  
●営業11:00~18:00、木曜定休



**4 モグサファーム**  
ホルスタインの模様を描いた道端の建物は牛舎。乳牛が飼われ、道路からの見学はOK。搾り立ての牛乳を使ったジェラートが⑩の直営店で味わえる。



**5 六地藏**  
モグサファーム先の交差点を右へ行き、道なりに坂道を上った丘の上に佇む。この道は百草八幡神社の参道であり、そばに庚申塔と道祖神も立つ。



**7 京王百草園**  
江戸近郊の名所として文人墨客にも愛された趣のある庭園。約50種500本の梅に加え四季折々に花が咲き、秋の紅葉も美しい。  
●開園 9:00~17:00 (11・12月は16:30まで)、水曜(祝日の場合は翌日)・年末年始休園  
●入園料 300円、小人 100円

**8 百草八幡神社**  
創建は不明だが、社室の狛犬には天平の文字が刻まれているという。境内から百草園の裏手にかけてシノキが群生し、特に社殿の裏の巨木は見事。



**6 六地藏先の畑**  
六地藏が立つのは丘陵の尾根部で、その西側一帯には斜面も含めて畑が続きのどかな風景が広がっている。



京王線は聖蹟桜ヶ丘駅を出るとまもなく左手に丘陵を間近に見て、次の百草園駅に至ります。この丘陵は多摩川と大栗川に挟まれた七生丘陵の東端にあたり、尾根と谷戸が複雑に連なっています。日野市の東の端に位置するこの地域は百草・倉沢地区と呼ばれ、周囲が住宅街になった中で奇跡のように里山の風情を残しています。

百草園駅を出て大宮神社の先から階段道を上り尾根を越えると、乳牛を飼う牛舎があり、反対の尾根に上がると六地藏が佇み、そこから西へ行くと京王百草園と百草八幡神社があります。神社から南に下ると倉沢地区。ここには万蔵院台と呼ばれる小高い台地があり、一面に農地が広がりブルーベリー畑や都内では数少ないリンゴ畑もあります。

**Study 東京のミカンとリンゴ**  
ナシやブドウよりくんと少ないが、都内でもミカンやリンゴがつかられている。どちらもコース途中で出会うが、都内のミカン栽培の中心は狭山丘陵(武蔵村山市、瑞穂町)。一方、リンゴは八王子市恩方地区に多かったがほとんどがブルーベリー園に変わり、現在は5戸が栽培する万蔵院台(日野市)の方が多い。品種は「陽光」「ふじ」が中心。

丘陵に抱かれた懐かしい里の集落から  
リンゴ畑もある農の台地へ



**11 12 万蔵院台**  
約4haの高台に農地が広がり、野菜のほかにリンゴやブルーベリーが栽培されもぎ取りや摘み取りが楽しめる。万蔵院の名は修験の寺があったことに由来。



**15 啓光学園手前の竹林**  
倉沢川緑地からは左手に雑木林を見ながら山裾の道を野狼街道まで。途中、啓光学園の手前で竹林に出会う。



**14 大栗川**  
倉沢川緑地の東端を右へ行くと大栗川が流れる。川岸の道を下流へ行くと約1.7kmで聖蹟桜ヶ丘駅に出ることもできる。

**13 倉沢の田んぼ**  
万蔵院台を下りミカン畑から続く道に戻る。このあたりは倉沢といい、道端に畑があり少し行くと田んぼもある。

